

いま見える未来は、超えていける。

安田倉庫は、挑戦を続けます。

国境も、従来の物流の枠も超える、ボーダレスなロジスティクスカンパニーへと進化するために。

そして、お客様が思い描く事業と社会の新しいかたちを創造するために。

2023年3月期 第2四半期決算説明会

安田倉庫株式会社（東証プライム：9324）

代表取締役社長 藤井信行

2022年11月15日

YASDA

Logistics, Progress, Borderless.

目次

1. 2023年3月期 第2四半期の実績	… 2
2. 2023年3月期 通期の見通し	…12
3. 成長戦略（長期ビジョン・中期経営計画）	…14
4. 株主還元	…31
＜参考資料＞	
安田倉庫について	…33
業界環境統計	…41

1.

2023年3月期 第2四半期の実績

当社業績

(単位：百万円)

	連結			前年同期比		対外公表予想対比	
	22年3月期 2Q	23年3月期 2Q	対外公表 業績予想	増減額	増減率	増減額	増減率
営業収益	25,144	29,589	28,700	4,445	17.7%	889	3.1%
営業利益	1,392	1,229	1,150	△163	△11.7%	79	6.9%
経常利益	1,988	2,150	1,700	161	8.1%	450	26.5%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,270	1,409	1,050	138	10.9%	359	34.2%
営業利益率	5.5%	4.2%	4.0%	△1.3pt	-	0.2pt	-
1株当たり 四半期純利益(円)	43.87	48.65	36.26	4.78	10.9%	12.39	34.2%
	22年3月期 末	23年3月期 2Q末		増減額	増減率		
総資産	159,082	159,038	-	△44	△0.0%		
純資産(*)	86,166	87,339	-	1,172	1.4%		
自己資本比率(*)	54.0%	54.7%	-	0.7pt	-		
1株当たり純資産(円) (*)	2,963.81	3,002.39	-	38.58	1.3%		

(*)2022年2月実施のハイブリッドローン150億円のうち、75%(112.5億円)をみなし資本として算出

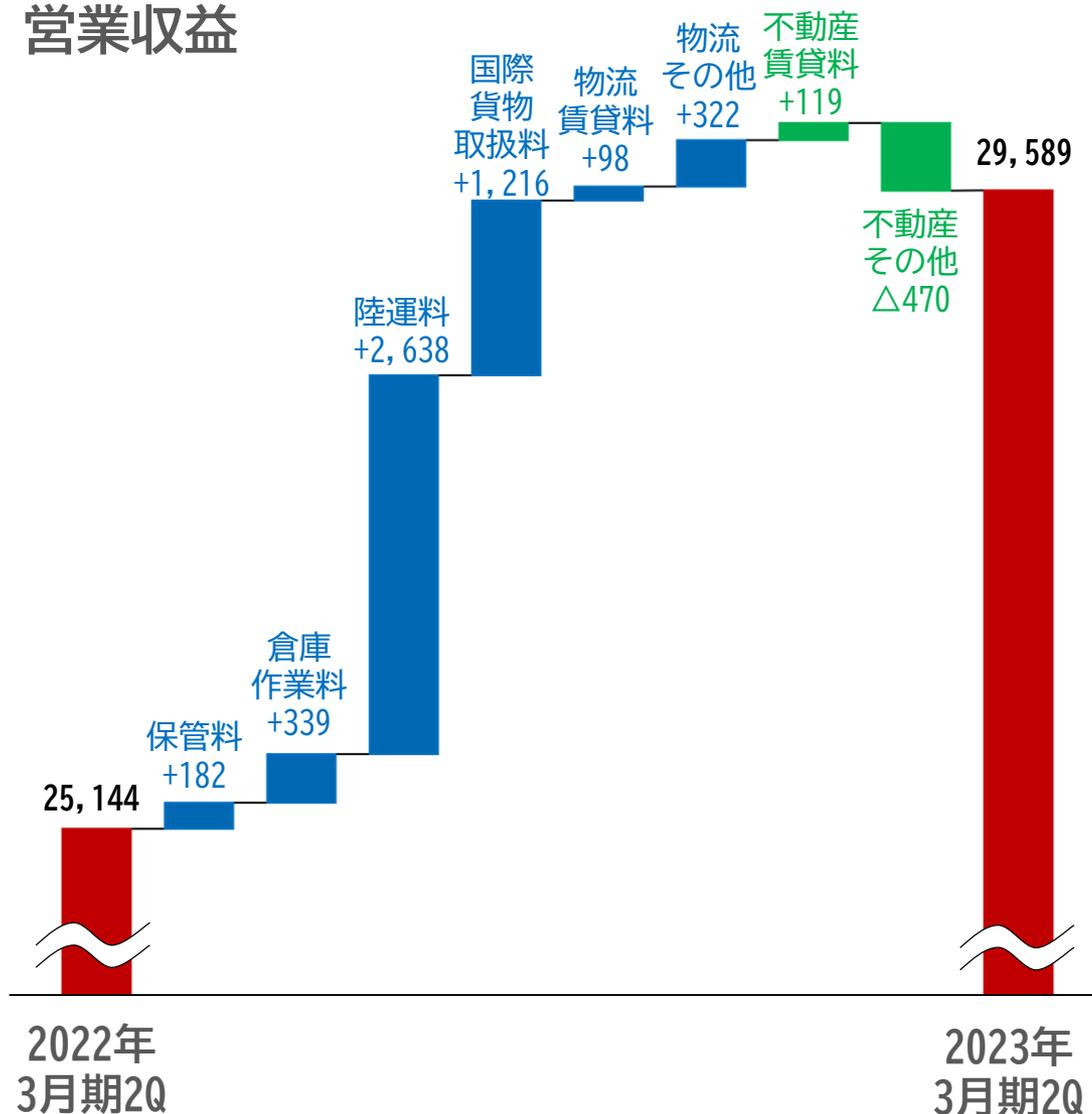
セグメント別業績

(単位：百万円)

	営業収益				営業利益			
	22年 3月期 2Q	23年 3月期 2Q	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率	22年 3月期 2Q	23年 3月期 2Q	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
物流事業	21,888	26,684	4,795	21.9%	1,493	1,460	△32	△2.2%
不動産事業	3,513	3,158	△354	△10.1%	1,127	1,021	△106	△9.4%
調整額	△257	△252	5	-	△1,228	△1,251	△23	-
計	25,144	29,589	4,445	17.7%	1,392	1,229	△163	△11.7%

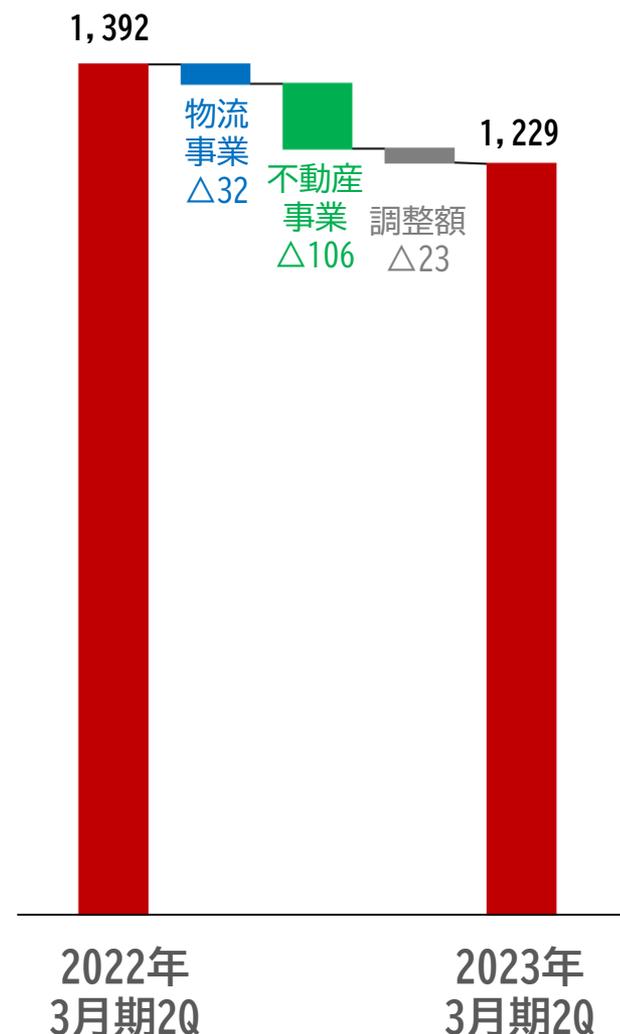
変動要因

営業収益



(単位：百万円)

営業利益



物流事業 物流施設推移

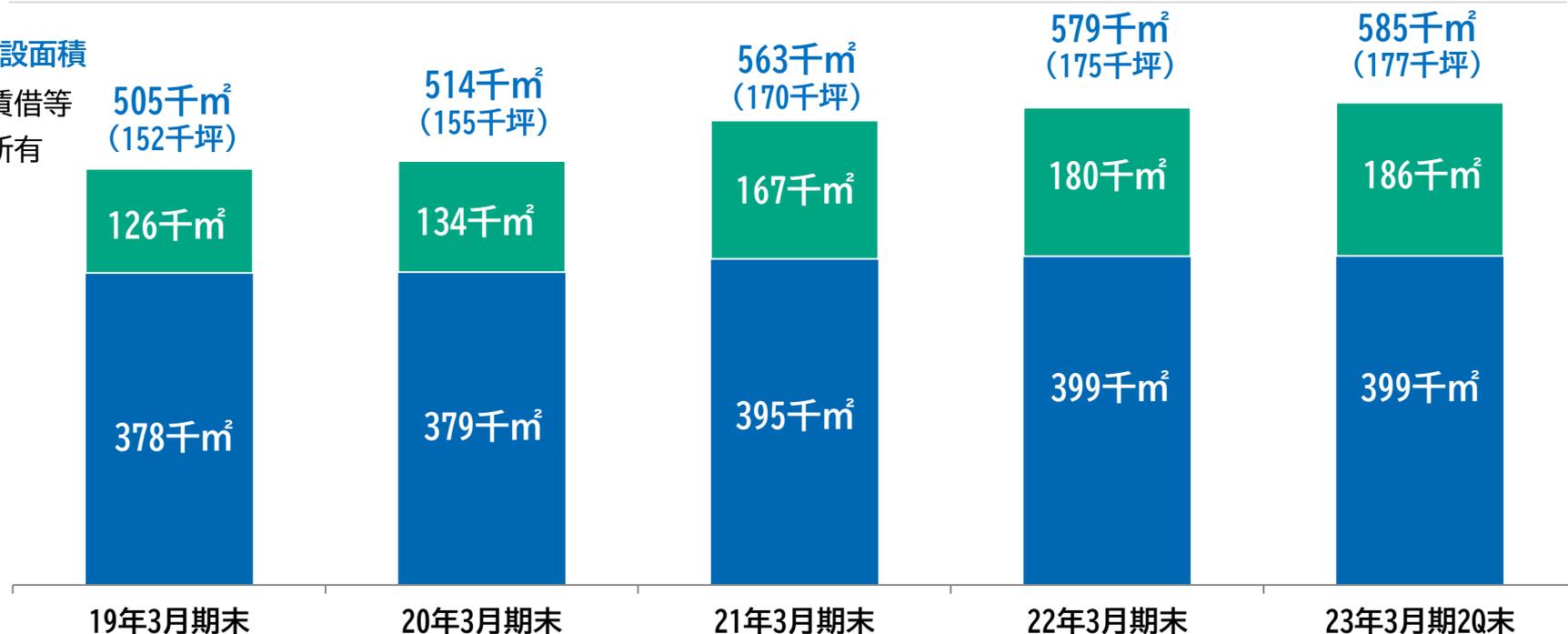
1㎡あたり物流事業収益

19年3月期～22年3月期：通期物流事業収益÷期末物流施設面積÷12カ月
 23年3月期2Q：2Q物流事業収益÷2Q末物流施設面積÷6カ月



物流施設面積

■ 賃借等
 ■ 所有



物流事業 科目別収益

(単位：百万円)

科目	概況	22年 3月期 2Q	23年 3月期 2Q	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
保管料	➢新規取引開始、既存顧客取引拡大に伴う既存物流施設の稼働率向上により前期比増収	4,031	4,213	182	4.5%
倉庫 作業料	➢新規取引開始、既存顧客取引拡大に加え、大口の流通加工案件受託により前期比増収	4,031	4,371	339	8.4%
陸運料	➢昨年グループ化の南信Gの寄与や運送系関係会社の新拠点開設等、輸配送ネットワーク拡充により前期比大幅増収	8,010	10,648	2,638	32.9%
国際 貨物 取扱料	➢海上運賃の高騰や航空輸送取扱増加、在来船での鋼材輸送好調により前期比大幅増収	3,552	4,768	1,216	34.2%
物流 賃貸料	➢南信G寄与分以外はおおよそ前期並み	794	892	98	12.3%
物流 その他	➢原薬販売や物流付帯業務増により前期比増収	1,459	1,781	322	22.1%

業界環境（物流）

倉庫（保管残高）

在庫積み増し傾向

保管残高 前年同期比+ 4.0%
※倉庫21社統計22年4~7月

倉庫（入庫高・出庫高）

出庫高伸び悩み

入庫高 前年同期比△ 0.6%
出庫高 前年同期比△ 3.3%
※倉庫21社統計22年4~7月

国内輸送（特積・宅配）

国内輸送量は微増

特積輸送(t)前年同期比+ 1.7%
宅配個数 前年同期比+ 1.2%
※国交省トラック輸送情報22年4~7月

輸出入（海上・航空）

海上：輸入増・輸出減(京浜港)

輸入(TEU) 前年同期比+ 4.2%
輸出(TEU) 前年同期比△ 3.8%
※東京都・横浜市港湾統計22年4~7月

航空：輸出入減(2019年並)

輸入(t) 前年同期比△ 6.5%
輸出(t) 前年同期比△12.9%
※航空貨物運送協会統計22年4~9月

不動産事業 科目別収益

(単位：百万円)

科目	概況	22年 3月期 2Q	23年 3月期 2Q	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
不動産 賃貸料	<p>▶東京地区・横浜地区各地区市況を大きく下回る低空室率の維持、空室率の低下により、前期比増収</p>	2,214	2,334	119	5.4%
不動産 その他	<p>▶前年同期に計上した大規模施工工事相当について前期比減収</p>	1,049	579	△470	△44.8%

業界環境（不動産）

東京・横浜不動産動向

東京：空室率高止まり・賃料減
 21年9月空室率6.4% 賃料¥20,858/坪
 22年9月空室率6.5% 賃料¥20,156/坪
 (+0.1pt) (△3.4%)

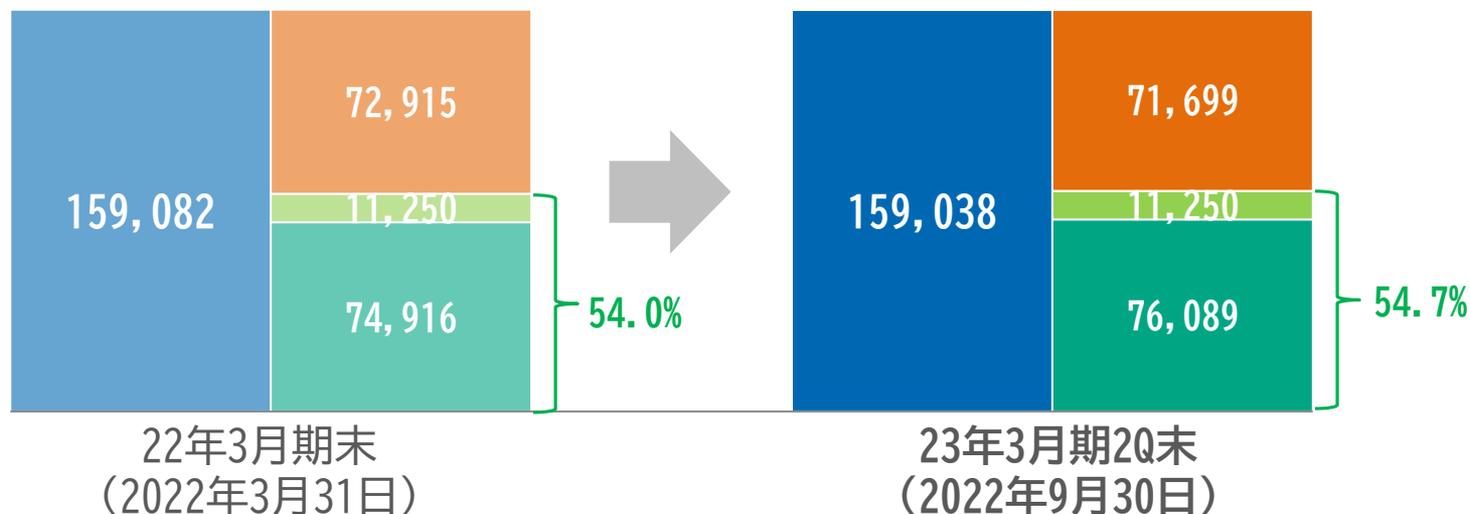
横浜：空室率上昇・賃料横ばい
 21年9月空室率4.4% 賃料¥12,403/坪
 22年9月空室率5.1% 賃料¥12,478/坪
 (+0.7pt) (+0.6%)

※三鬼商事(株)市況・データ情報

連結財政状態

(単位：百万円)

注：%表記は自己資本比率



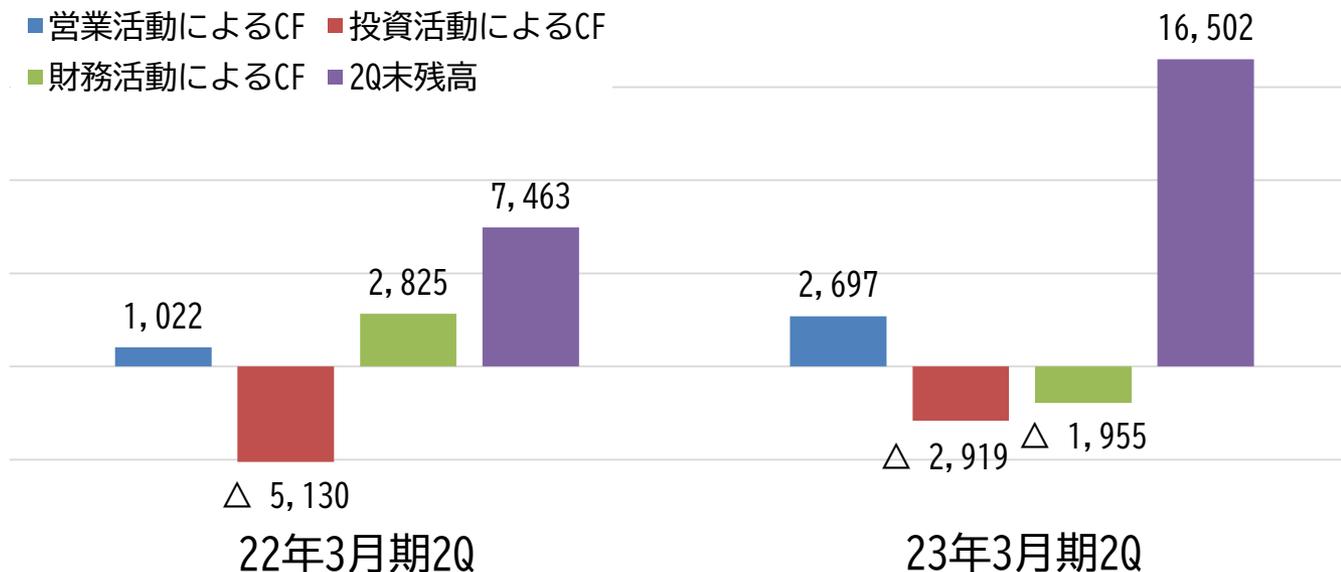
主な要因

■ 総資産	受取手形及び営業未収金	(+ 1,228百万円)
	建設仮勘定	(+ 964百万円)
	現金及び預金	(△ 1,683百万円)
■ 負債	営業未払金	(+ 813百万円)
	長期借入金(1年以内返済分含む)	(△ 1,290百万円) ※みなし資本分除く
■ 純資産	みなし資本(*)	(± 0百万円)
	利益剰余金	(+ 1,030百万円)

(*)2022年2月実施のハイブリッドローン150億円のうち、75%(112.5億円)をみなし資本として算出

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



	22年3月期 2Q	23年3月期 2Q	前期比	主な要因
営業活動によるCF	1,022	2,697	+1,675	税金等調整前四半期純利益や減価償却費の資金留保など
投資活動によるCF	△5,130	△2,919	+2,210	有形・無形固定資産の取得による支出など
財務活動によるCF	2,825	△1,955	△4,780	長期借入金返済、配当金の支払による支出など
2Q末残高	7,463	16,502	+9,039	

設備投資・借入金

(単位：百万円)

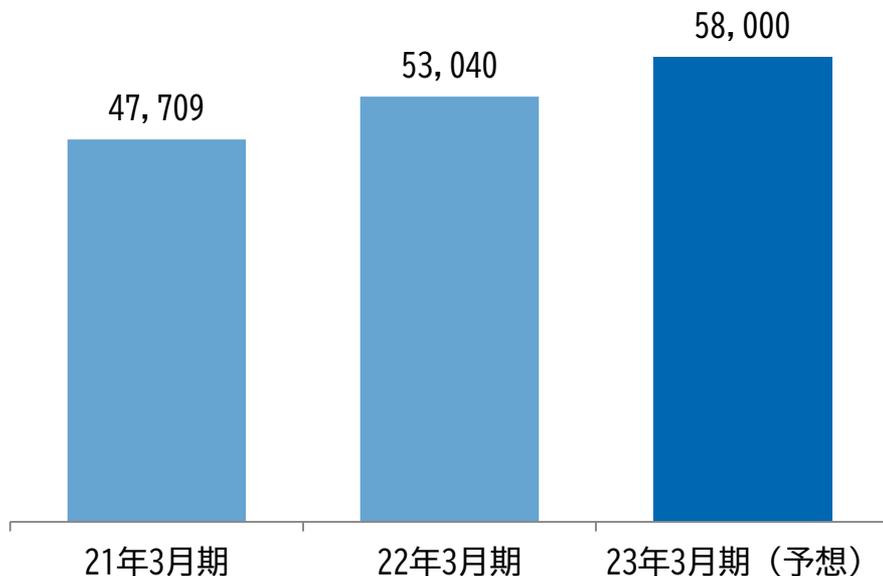
	22年3月期	23年3月期 2Q	23年3月期 (計画)
設備投資額	6,538	2,523	8,995
23年3月期			
主な投資案件		<ul style="list-style-type: none">・倉庫建設（北大桑）・DX・システムへの投資・既存物流・不動産施設の設備更新	
減価償却費	3,401	1,758	3,630
期末借入金残高 及び社債発行残高	56,156	54,835	53,503

2.

2023年3月期 通期の見通し

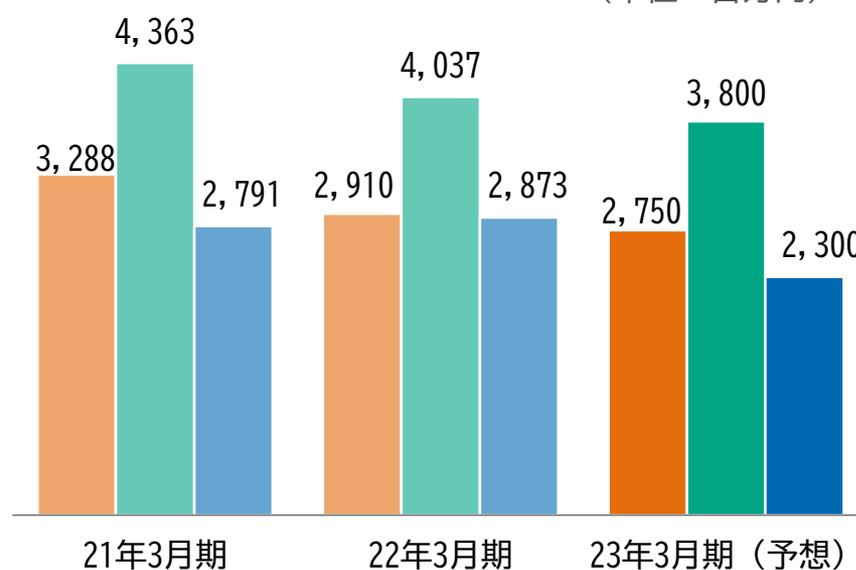
連結業績予想

(単位：百万円)



前期比	
増減額	増減率

■ 営業収益 4,959 9.3%



前期比	
増減額	増減率

■ 営業利益	△160	△5.5%
■ 経常利益	△237	△5.9%
■ 親会社株主に 帰属する 当期純利益	△573	△20.0%

- 営業収益は、取引拡大による既存施設の収益力向上や輸配送ネットワークの拡充などの事業基盤の強化により増収を見込む。
- 営業利益は、既存施設の修繕や経営インフラの強化に伴う各種費用の増加などにより減益を見込む。

3.

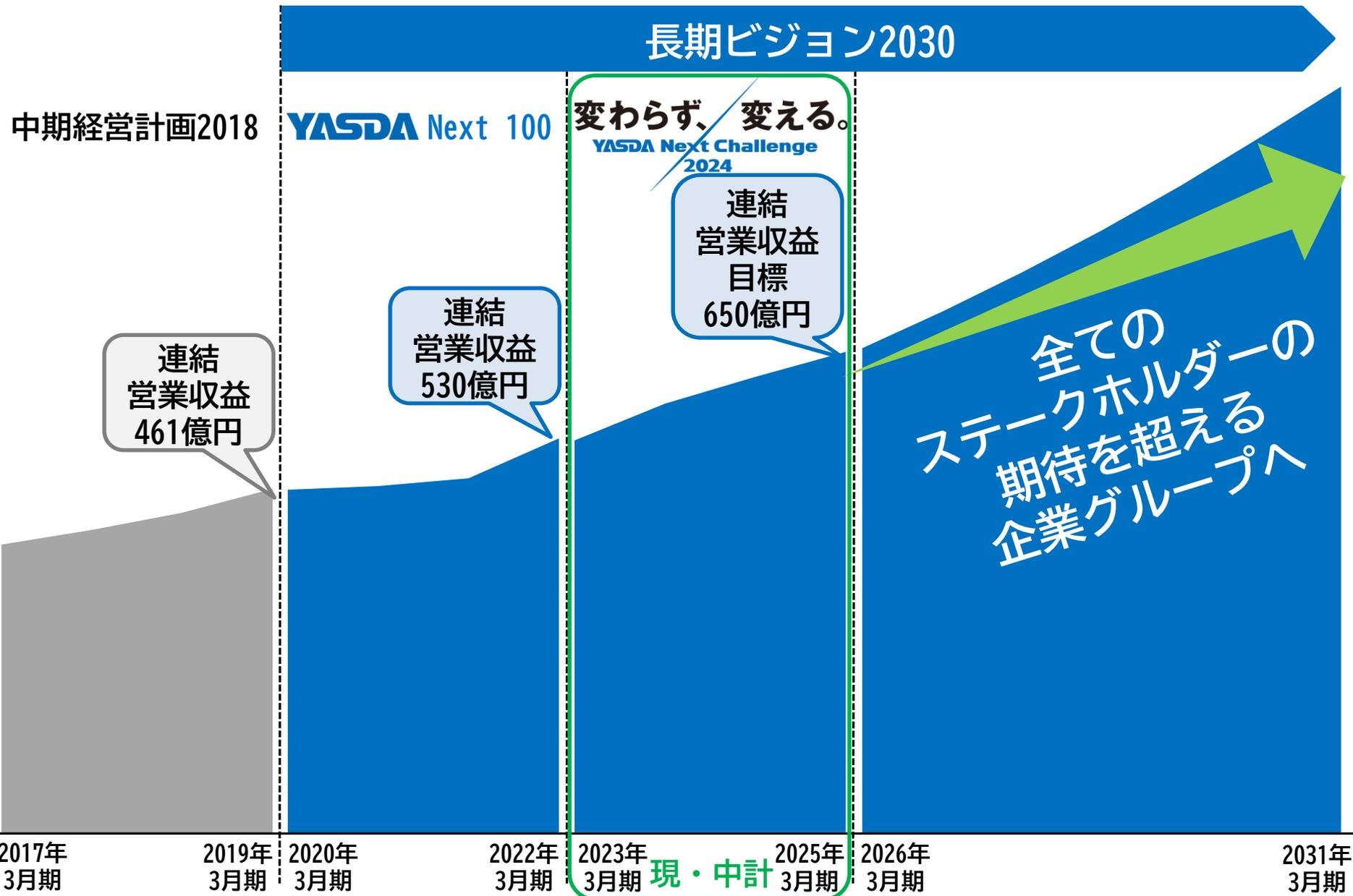
成長戦略（長期ビジョン・中期経営計画）

長期ビジョン2030

世界に誇れるYASDAブランドと革新的テクノロジーの融合で
全てのステークホルダーの期待を超える企業グループを目指す



長期ビジョン2030



変わらず、変える。

YASDA Next Challenge 2024

- 基本方針

最先端テクノロジーと人間力を融合した、
「YASDA Value」で多様化する社会とお客様ニーズに応える。

YASDA Value = お客様の声に真摯に耳を傾け誠実にお応えする安田倉庫グループで共有する価値

2022年度～2024年度中期経営計画の概要

● 基本目標

	22年 3月期	中計最終年度 目標 (25年3月期)	増加額	増加率
営業収益	53,040	65,000	11,959	22.5%
営業利益	2,910	4,000	1,089	37.5%
経常利益	4,037	4,800	762	18.9%
営業 利益率	5.5%	6.2%	0.7pt	-

物流

お客様のビジネス環境に合わせた最適なサービス提供と、既存の物流の領域に捉われない新サービスの創造

不動産

保有不動産の再開発による収益基盤の更なる強化

経営インフラ

社会環境の変化にも柔軟に対応できるサステナビリティ経営基盤と、確固たる現場力・人間力の確立

中計期間において、計360億円（物流事業280億円、不動産事業40億円、DXおよびシステム40億円）の投資を計画

中期経営計画の実現に向けて

物流拠点の更なる拡充（九州新拠点の開設）

2022年9月、九州の新物流拠点として「九州営業所 第二倉庫」開設



九州営業所

福岡県三井郡大刀洗町
大字高樋1708番地4
2017年7月開設



九州営業所 第二倉庫

福岡県小郡市山隈308
プロロジスパーク小郡 福岡ロジテム内
2022年9月開設

一体運営により
九州における物流ニーズへの対応力や
九州全域向けの配送機能の強化を図る

中期経営計画の実現に向けて

物流拠点の更なる拡充（加須新倉庫の新設）

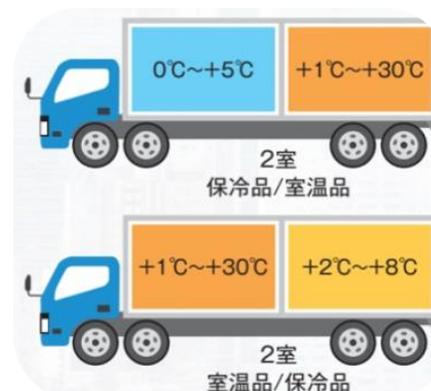
医薬品専用の輸配送網と、医薬品管理に必要なGDPを備えた新たな医薬品物流拠点を建設中



所在地	埼玉県加須市北大桑
敷地面積	約21,400㎡（約6,400坪）
延床面積	約41,700㎡（約12,600坪）
主要構造	鉄骨造（免震構造）
階数	倉庫4階建



医薬品専用車両



医薬品特性に合わせた二層式車両

中期経営計画の実現に向けて

物流拠点の更なる拡充（羽田メディカルロジスティクスセンターの新設）

医療機器総合ワンストップサービスの提供拠点として
東雲、辰巳に続く新拠点を羽田空港至近エリアに設置予定



物流事業者として初の医療機器修理業許可
（修理区分特管第1～8区分まで）取得により
医療機器総合ワンストップサービスが実現

2020年 東京メディカルロジスティクスセンターⅠ
（東雲営業所）開設



2021年 東京メディカルロジスティクスセンターⅡ
（辰巳倉庫）開設



今後 羽田メディカルロジスティクスセンター
（〔仮称〕羽田営業所）開設予定



イメージ図

中期経営計画の実現に向けて

MA・アライアンス戦略（国内）



国内ネットワーク

- 運送系3社の更なる連携強化
- 新たな輸配送ネットワークの獲得に資する物流企業のMA・アライアンスや医療関連企業への投資

中期経営計画の実現に向けて

MA・アライアンス戦略（海外）

<中国>

安田中倉国際貨運代理（上海）有限公司 : フォワーディング事業
安田物流（上海）有限公司 : 倉庫事業

<ベトナム>

YASUDA LOGISTICS (VIETNAM) CO., LTD. : フォワーディング事業

<インドネシア>

PT YASUDA LOGISTICS INDONESIA : フォワーディング事業

海外ネットワーク

- 各現地法人における新たな地域、事業領域への拡大
- シンガポール、タイ、インドなどアジア太平洋地域における新たな拠点展開

中期経営計画の実現に向けて

変化する社会のニーズに応じた物流サービスの拡大①

テレワークの浸透を背景に成長するIT機器ライフサイクルマネジメント



企業において近年増加する、PC、スマートフォン、タブレットなどのIT機器の管理運用業務について、資産・在庫管理、キットティング、設置・導入、運用・保守、回収、データ消去、廃棄といったライフサイクルにかかる一連の業務をお引き受けする「IT機器ライフサイクルマネジメント」サービスを提供しております。



PCキットティング



スマートフォン
キットティング

中期経営計画の実現に向けて

変化する社会のニーズに応じた物流サービスの拡大②

企業の自社ECによる販売戦略をサポートするECセンター

ノウハウ

ギフト商戦に強い自社ECを可能にする
流通加工サービス



ギフト包装



メッセージカード同封



システム

EC固有の様々なニーズに対応できる
EC専用倉庫管理システムの開発



体制

平日・休日問わず短納期の実現のため
拠点集約による休日作業体制構築



22年4月、大黒営業所内に
ECセンターを開設

中期経営計画の実現に向けて

変化する社会のニーズに応じた物流サービスの拡大③

企業の働き方改革に貢献するBPOサービス



22年9月、芙蓉総合リースとBPOサービス事業分野において業務提携いたしました。業務提携の第一段として芙蓉総合リースのBPO事業関連子会社NOCアウトソーシング&コンサルティングが提供する総務アウトソーシングサービス「Somove（ソームーブ）」のサービスメニューとして、当社オフィスサポート事業の「文書保管サービス」、「オフィス移転サービス」が掲載されます。



文書保管・文書電子化サービス



オフィス移転サービス



芙蓉総合リースと共同で、バックオフィスの負荷軽減による働き方改革に貢献する新たなビジネスの展開を目指す

中期経営計画の実現に向けて

DX・新たなテクノロジーの活用

21年2月に設置したDX事業推進室のもと、先進的なシステム・新たなテクノロジーと、長年培ってきた物流ノウハウの融合により、持続可能なサービス提供と顧客の事業課題への新たなソリューションをもたらすべく、様々な実証実験に取り組む

RFルーカスと共同での実証実験



21年2月に投資したRFルーカスと共同で、同社が持つRFIDタグの位置特定特許技術のIT機器ライフサイクルマネジメントや医療機器ローナー業務への活用に向けて取り組む。

物流現場の省人化



持続可能な物流サービスの提供に向けて、AGV（無人搬送車）やAMR（自律走行搬送ロボット）の実験を様々な物流現場で実施し、随時導入を進める。

中期経営計画の実現に向けて

DX・新たなテクノロジーの活用

AI画像解析技術の活用に向けた実験



倉庫内の検品作業へのAI画像解析技術の活用に向けた実証実験により、検品作業の省人化と高精度化の両立を目指す。

冷蔵温度帯スワップボディコンテナ実証実験



中央倉庫、日本トレクス、フジトランスポートと共同で、国内初の冷蔵温度帯スワップボディコンテナの実証実験をおこない、ドライバーの労務環境改善と、GDPに準拠しつつ持続可能な医薬品輸送の確立を目指す。

中期経営計画の実現に向けて

サステナビリティ経営

22年2月、当社グループ内のサステナビリティを巡る各種課題に対する取り組みの推進機能強化と情報開示を目的として「サステナビリティ推進室」を新設し、当社グループの重要課題（マテリアリティ）を定め、持続可能な社会の実現と事業の継続的な発展の両立に向けて取り組む

マテリアリティ	特定されたESG課題	関連するSDGs
1 高品質で安全なサービスの提供による最適な社会環境の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通じた課題解決 ・責任ある調達 ・品質への取り組み ・地域社会への貢献 	    
2 低炭素・循環型社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動への対応 ・廃棄物の発生抑制 	    
3 多様な人材がゆとりと豊かさを体現できる職場の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・ダイバーシティの推進 ・人権の尊重 ・働きやすい職場環境作り ・労働安全衛生 	   
4 企業の社会的責任を深く認識した経営の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンス強化 ・コンプライアンス ・株主・機関投資家との対話 ・大規模災害発生時の対応（BCP） ・情報セキュリティ強化 	 

TCFD | TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

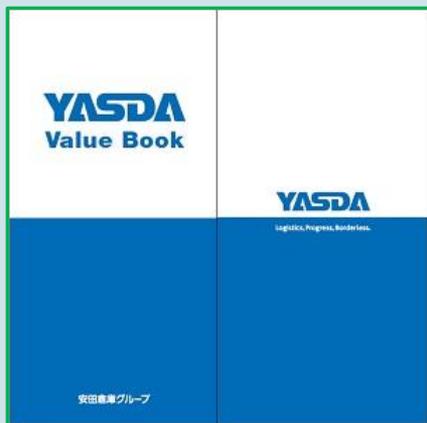
本年6月、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に賛同表明し、当社HP上で気候変動関連情報の開示を開始

中期経営計画の実現に向けて

多様な人材が人間力を最大限発揮できる職場の実現

理念の浸透

YASDA Value Book



企業理念、行動指針、経営計画を体系的に整理し、安田倉庫グループの価値観、行動基準、目標を認識し、振り返る原点として、「YASDA Value Book」を発行し、グループで働く全ての方に共有しています。

制度

新人事制度導入



21年7月、職員の意識・行動を変える評価制度、多様な人材活用・働き方の推進、教育プロセスのブラッシュアップを行い現場力・企業力の強化を図る目的で、新人事制度を導入しました。

女性活躍推進

女性管理職割合10%以上（26年3月末）を掲げ、管理職候補への女性活躍研修や女性が働きやすい体制・環境整備を進めます。

キャリア採用者の積極登用

高い専門性や異業種での経験を有する多様な人材確保と、入社後のキャッチアップ研修による人材育成をおこなっております。

働きやすい職場環境整備

安田倉庫および関係会社3社の本社移転(20年12月)



新VPNへの移行によるテレワーク環境整備(21年5月)



守屋町営業所食堂
リニューアル(22年4月)



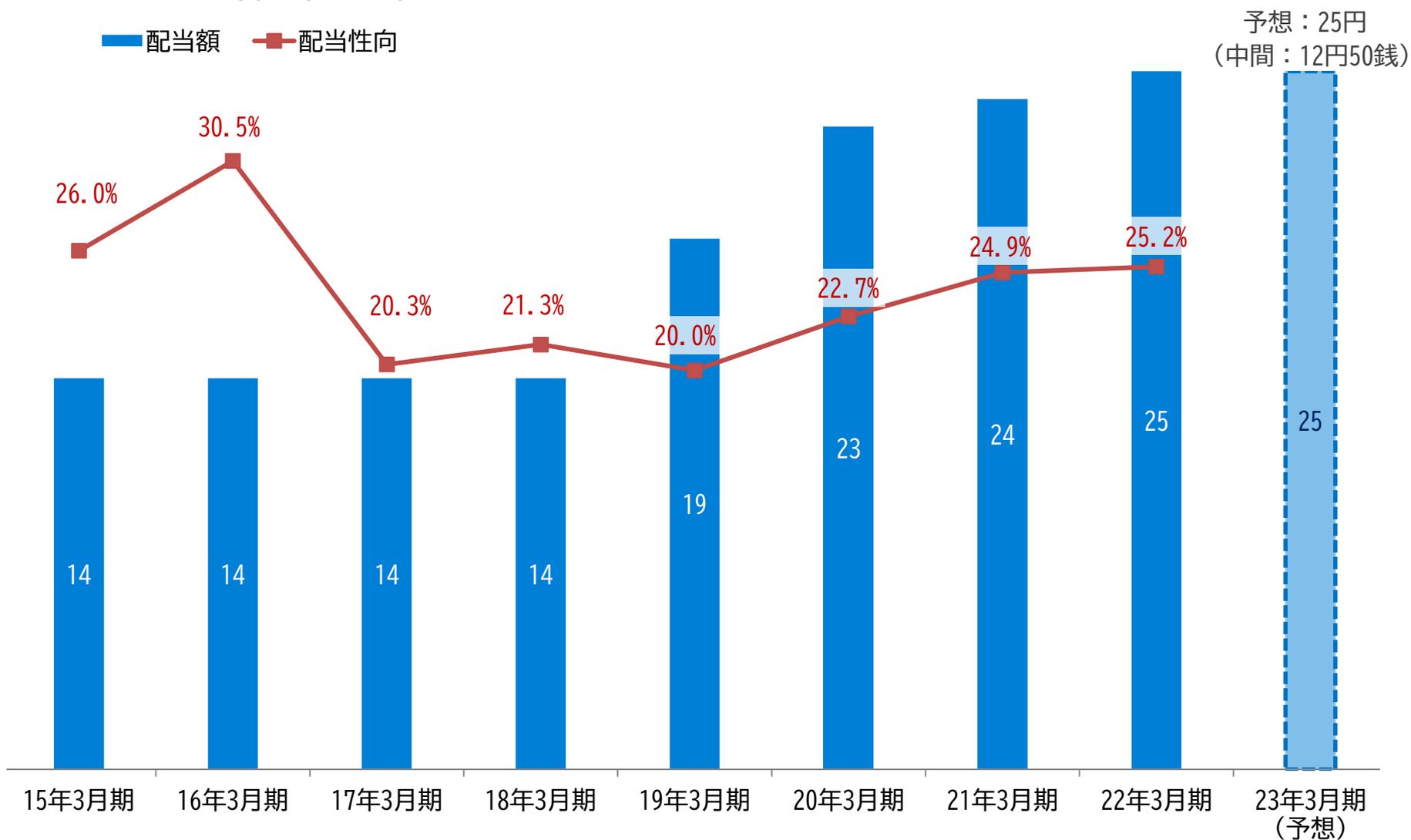
4.

株主還元

安定配当を基本としつつ利益水準等を勘案し決定

<基準日> ■ 中間配当：9月末
■ 期末配当：3月末

■ 配当額 ■ 配当性向



安田倉庫について

会社概要

会社名	安田倉庫株式会社 Yasuda Logistics Corporation
所在地	東京都港区芝浦三丁目1番1号 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 29階
創立	1919年12月20日
代表者	代表取締役社長 藤井 信行
事業内容	倉庫業、運送事業、不動産業
資本金	3,602,100千円
市場	東証プライム（証券コード：9324）
従業員数	単体 472名 連結2,037名（2022年9月末）
連結子会社	18社（国内14社 海外4社）
決算月	3月



msb Tamachi
田町ステーションタワーN

企業理念・コーポレートスローガン

安田倉庫グループ企業理念



安田倉庫コーポレートスローガン

Logistics, Progress, Borderless.

お客様と共にグローバルなロジスティクスカンパニーに成長すべく、当社グループが一体となり、その一人一人が従来の事業の枠にとらわれることなく常に発展・成長を続け、物流を進歩させていく決意を表しています。

100年を超える歴史

1919年

興亜起業(株)
として創立



安田善次郎



守屋此助

1942年

社名を
安田倉庫(株)
に改称



函館常備倉

2005年

東証1部
上場



2014年

新組織設置



メディカル物流
ユニット



ITキitting
ユニット

2019年

創立100周年



大西運輸・オオニシ機工
のグループ化決定



大西運輸



オオニシ機工

2020年

東京メディカル
ロジスティクス
センター開設



2021年

東京メディカル
ロジスティクス
センターII開設



南信貨物自動車Gの
グループ化



2022年

東証
プライム
移行

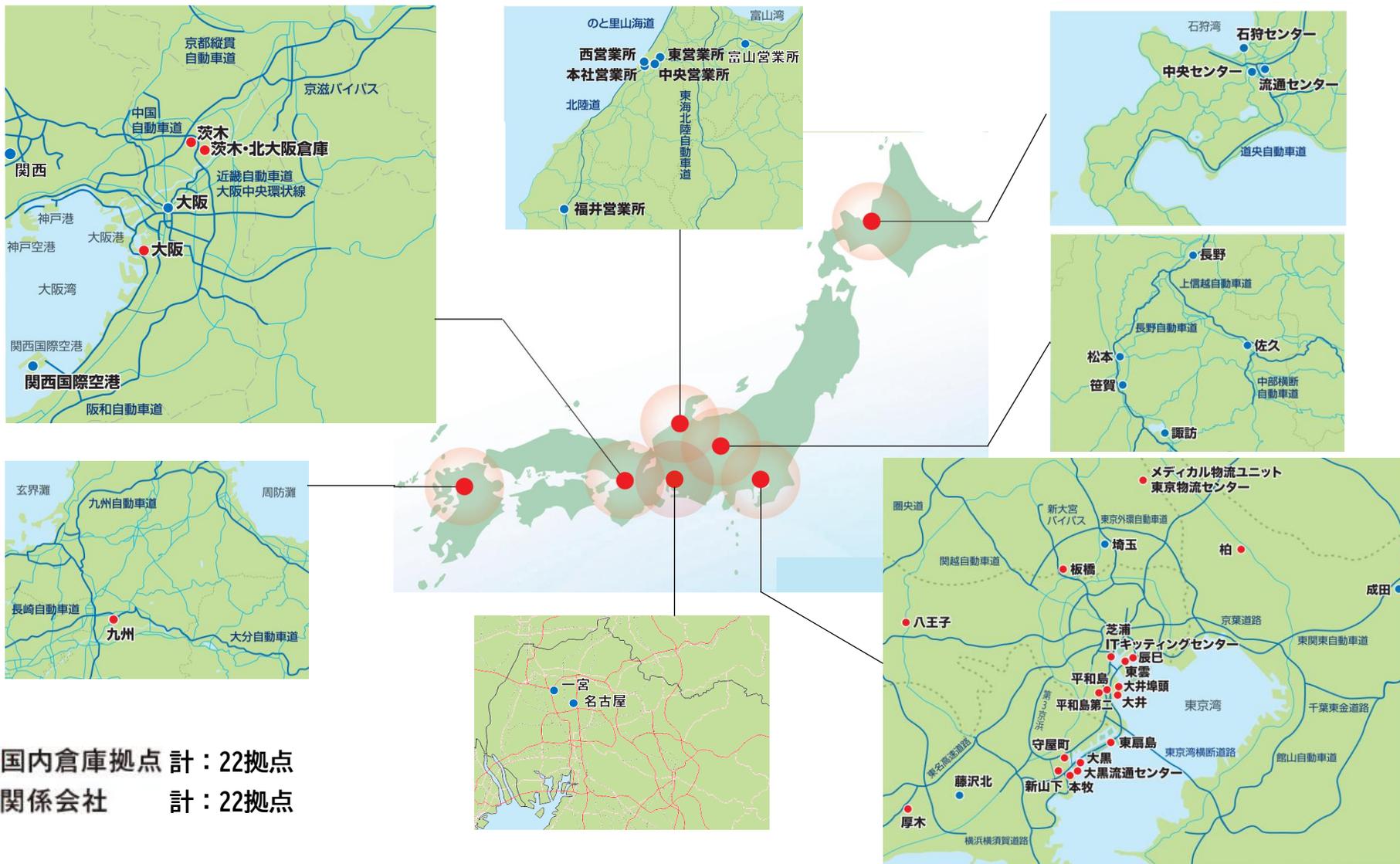


様々なサービスを提供する総合物流企業



日本全国をカバーする国内ネットワーク

東西の主要拠点により持続的なサプライチェーンを提供



中国・ASEANを中心に世界各国へ展開するネットワーク

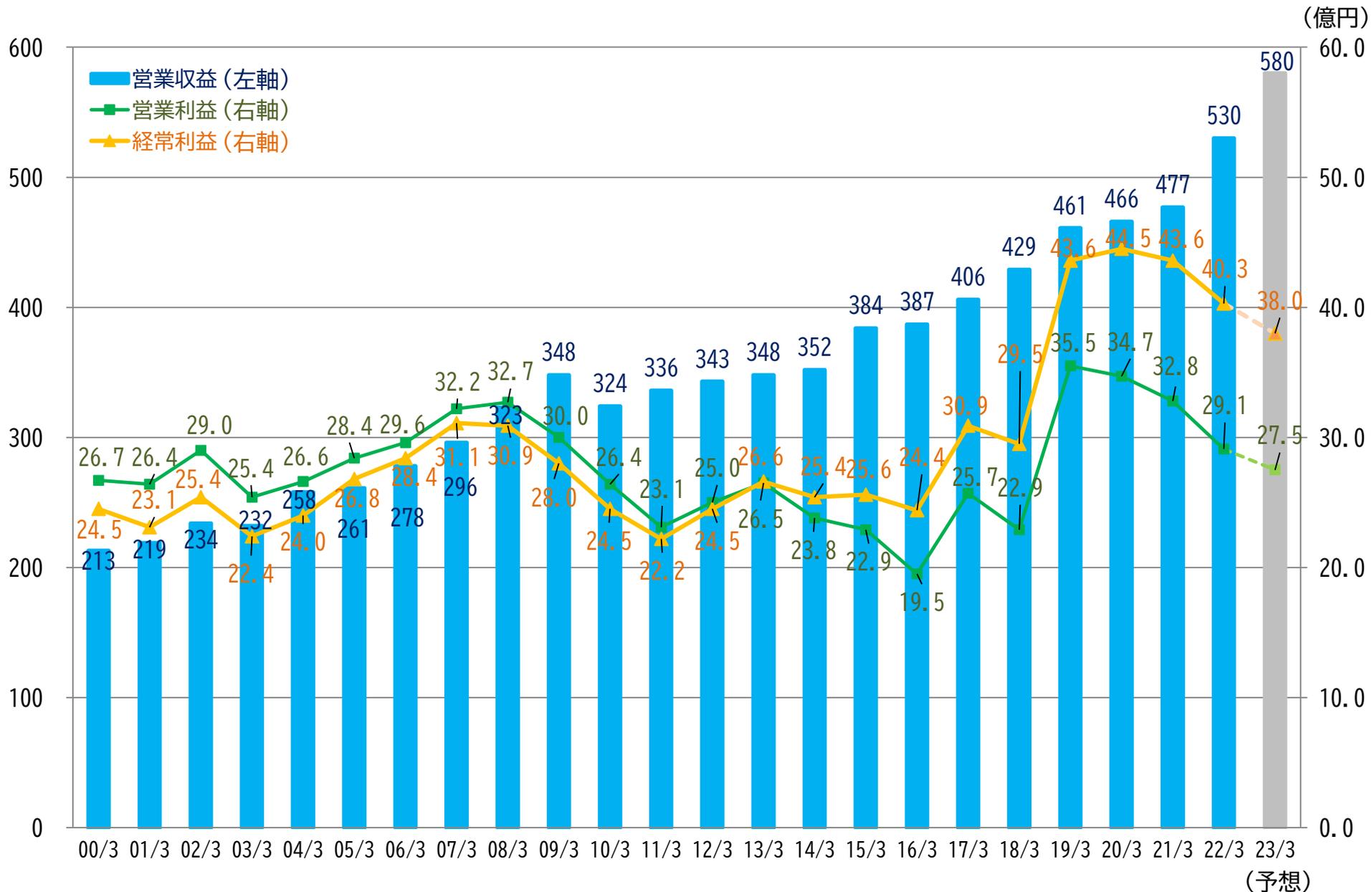


中国・ASEAN 拡大図 ● 自社拠点 ● 代理店



安田物流(上海)有限公司

業績推移

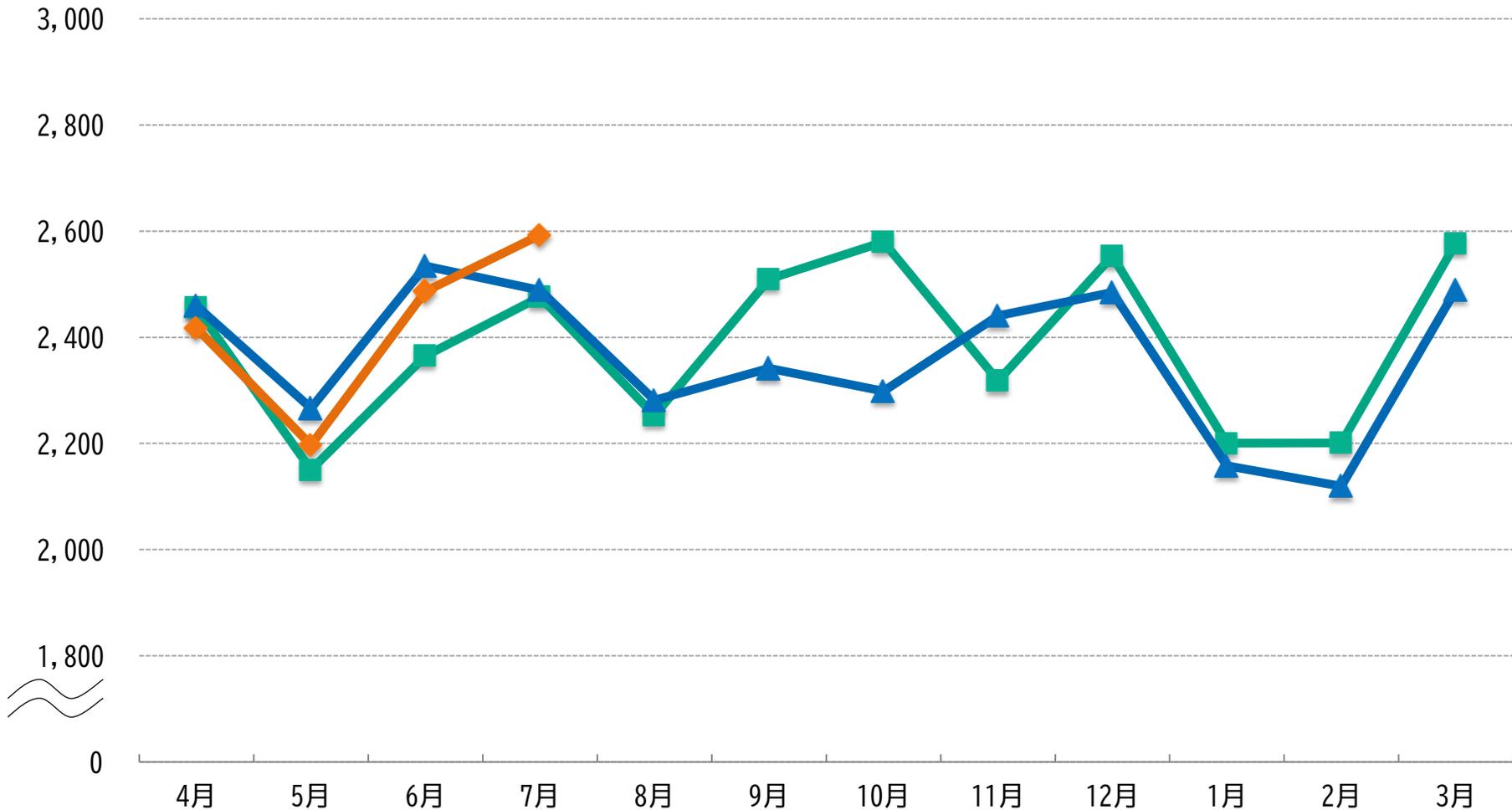


事業環境データ集

普通倉庫 21社統計 入庫高

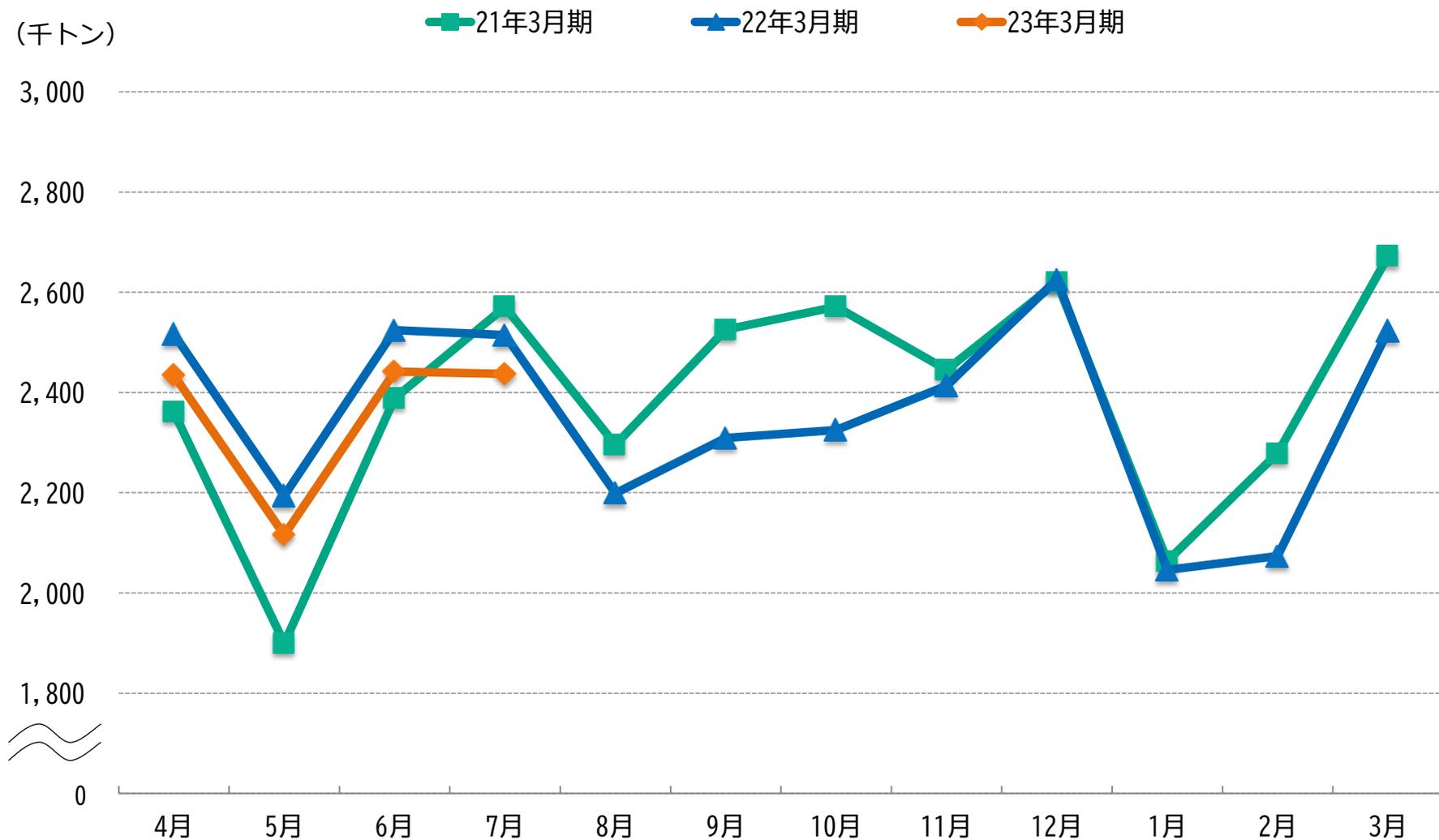
(千トン)

■ 21年3月期 ▲ 22年3月期 ◆ 23年3月期



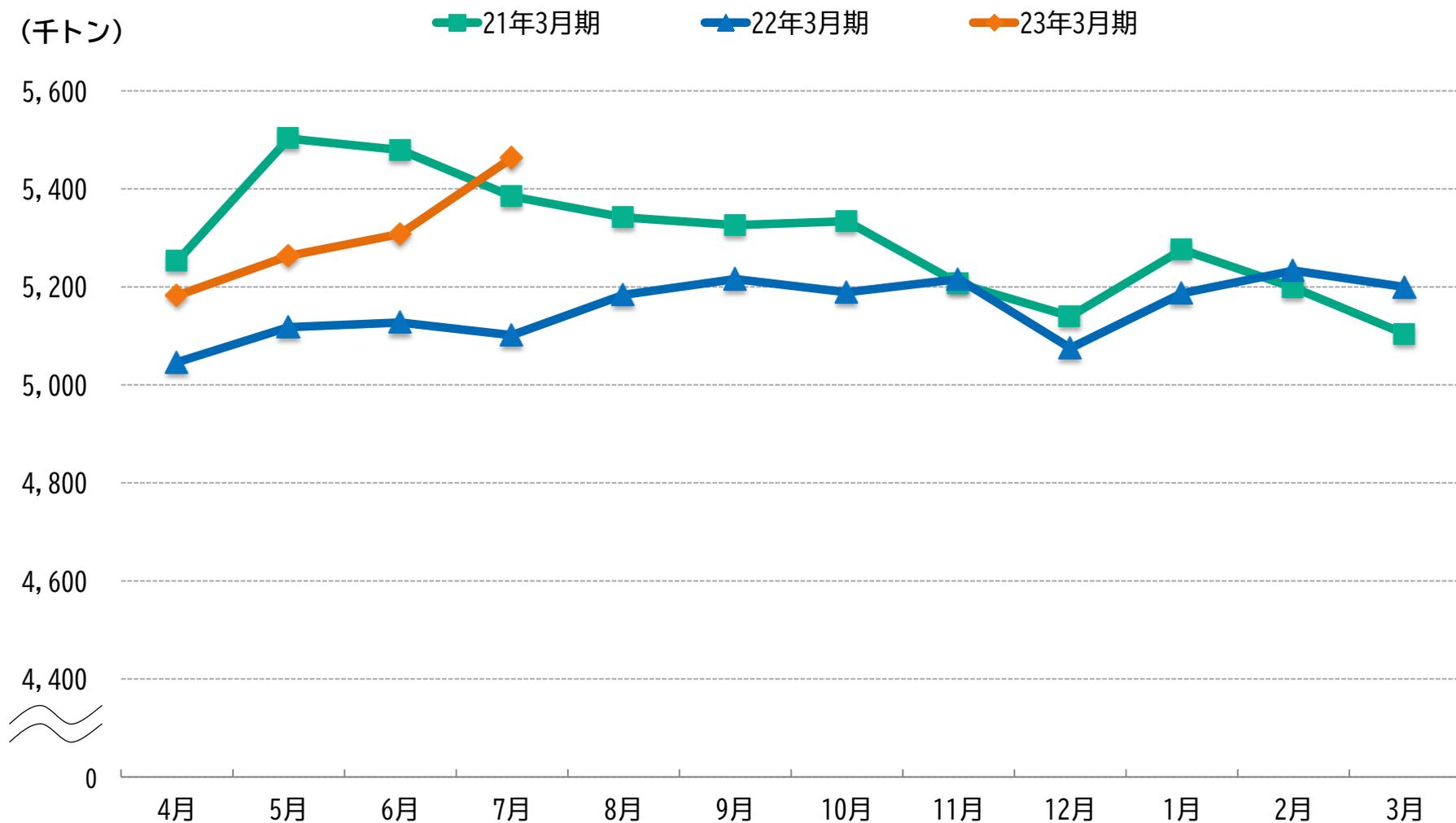
データ出典：一般社団法人 日本倉庫協会

普通倉庫 21社統計 出庫高



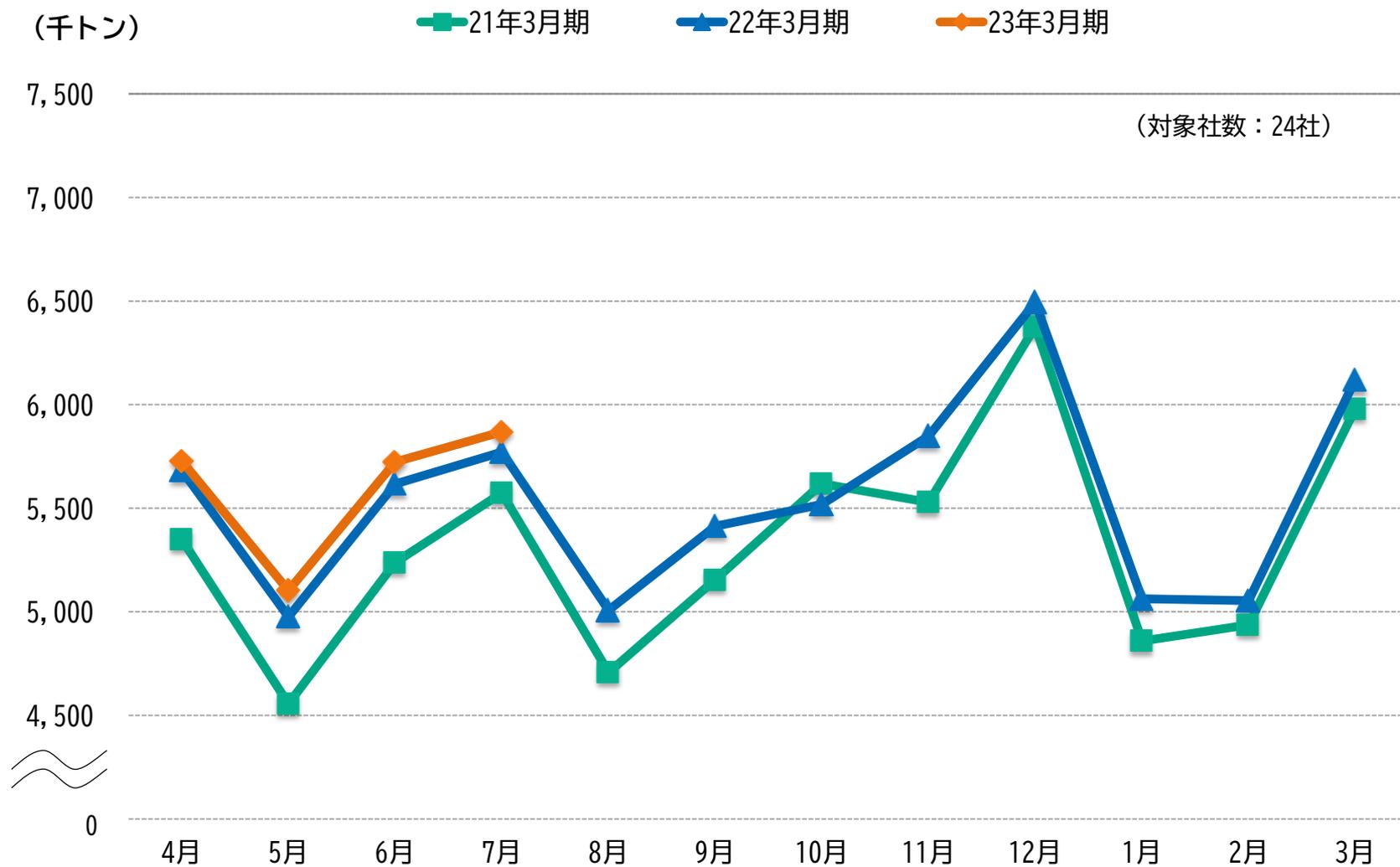
データ出典：一般社団法人 日本倉庫協会

普通倉庫 21 社統計 保管残高



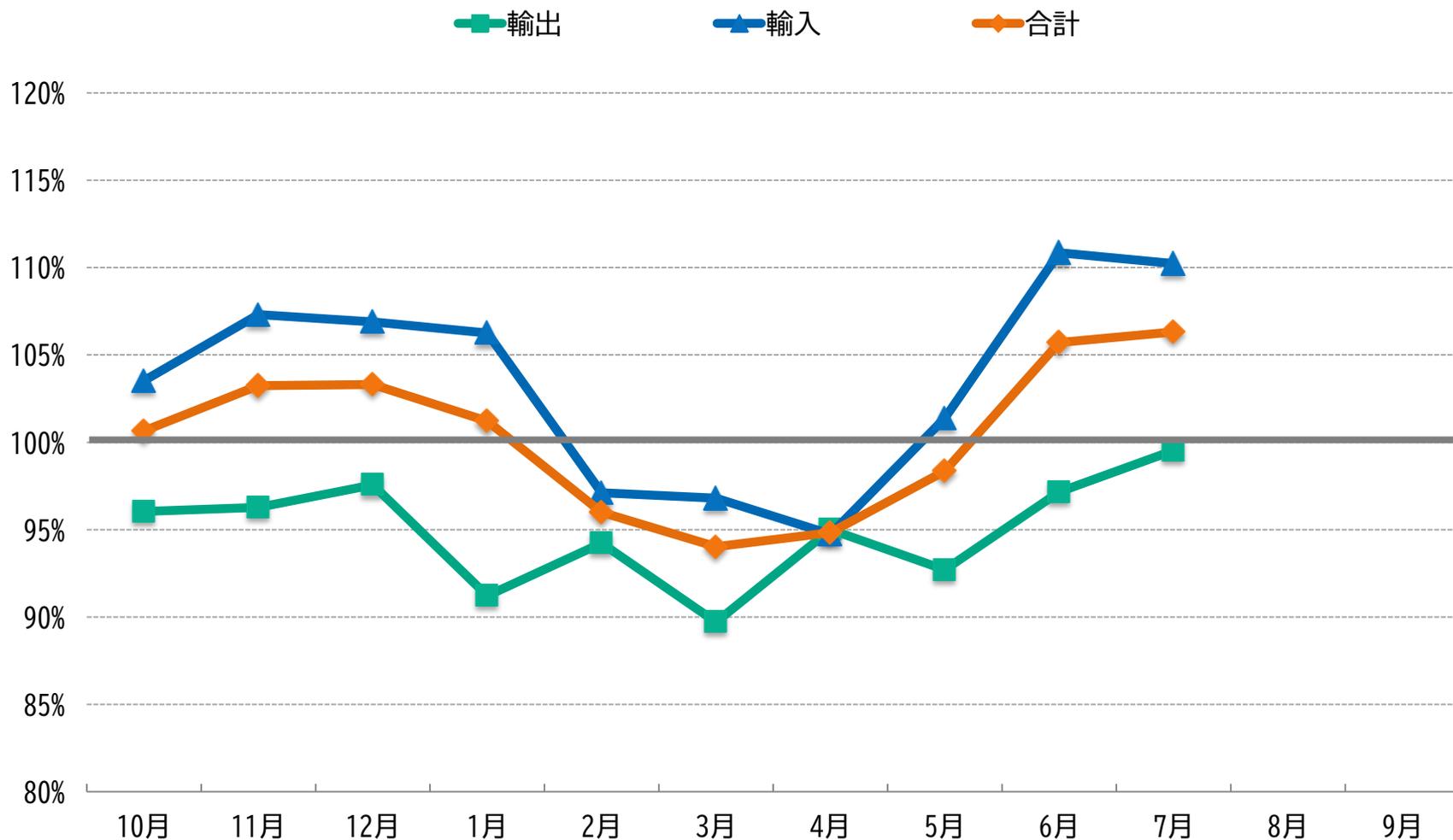
データ出典：一般社団法人 日本倉庫協会

特積貨物輸送トン数（宅配含む）



データ出典：国土交通省 トラック輸送情報

京浜港コンテナ取扱本数 前年同月比



データ出典：東京都港湾局 港湾統計、横浜市港湾局 横浜港の統計

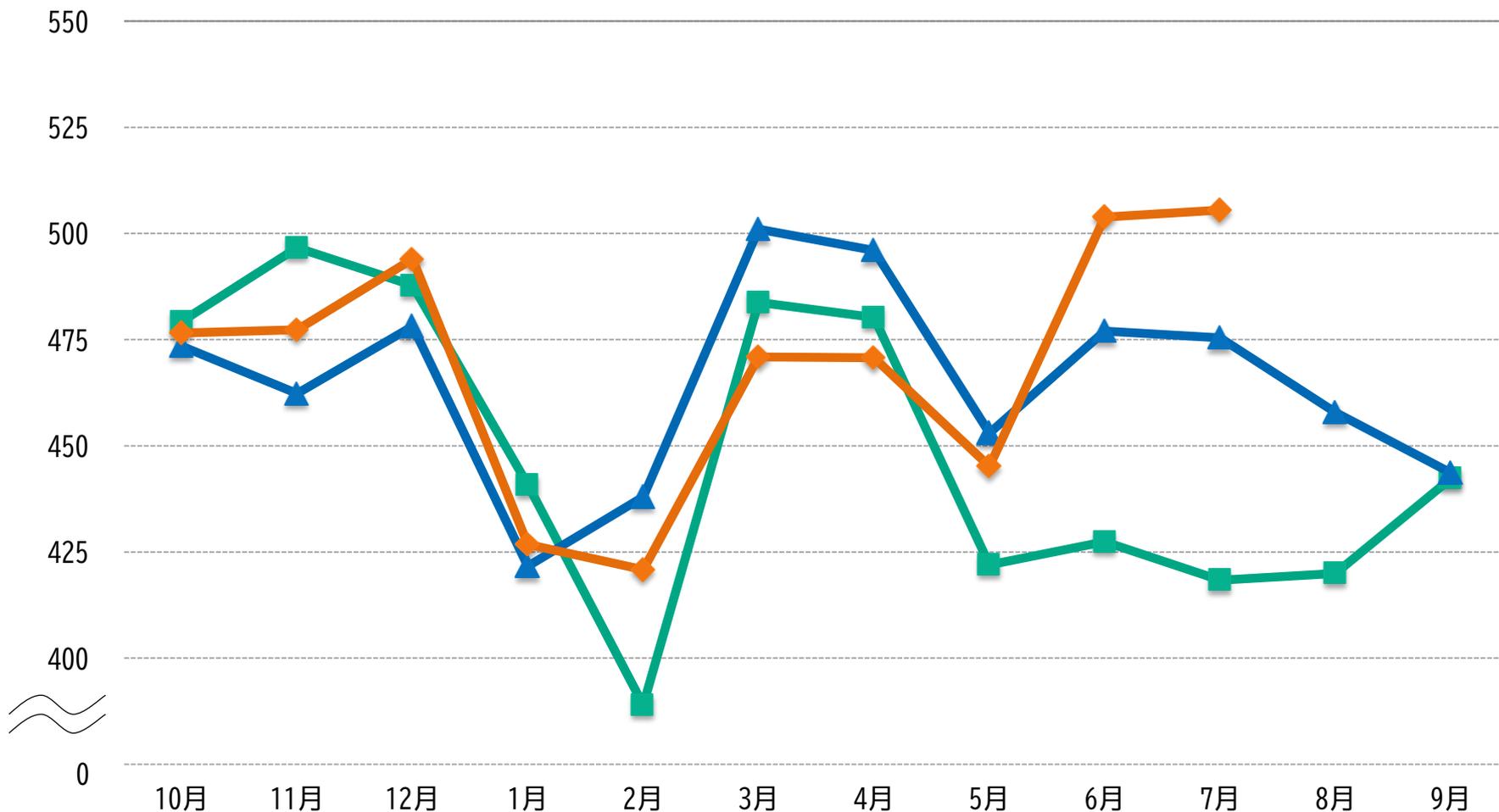
京浜港コンテナ取扱本数 輸出入合計

(千TEU)

■ 19年10月～20年9月

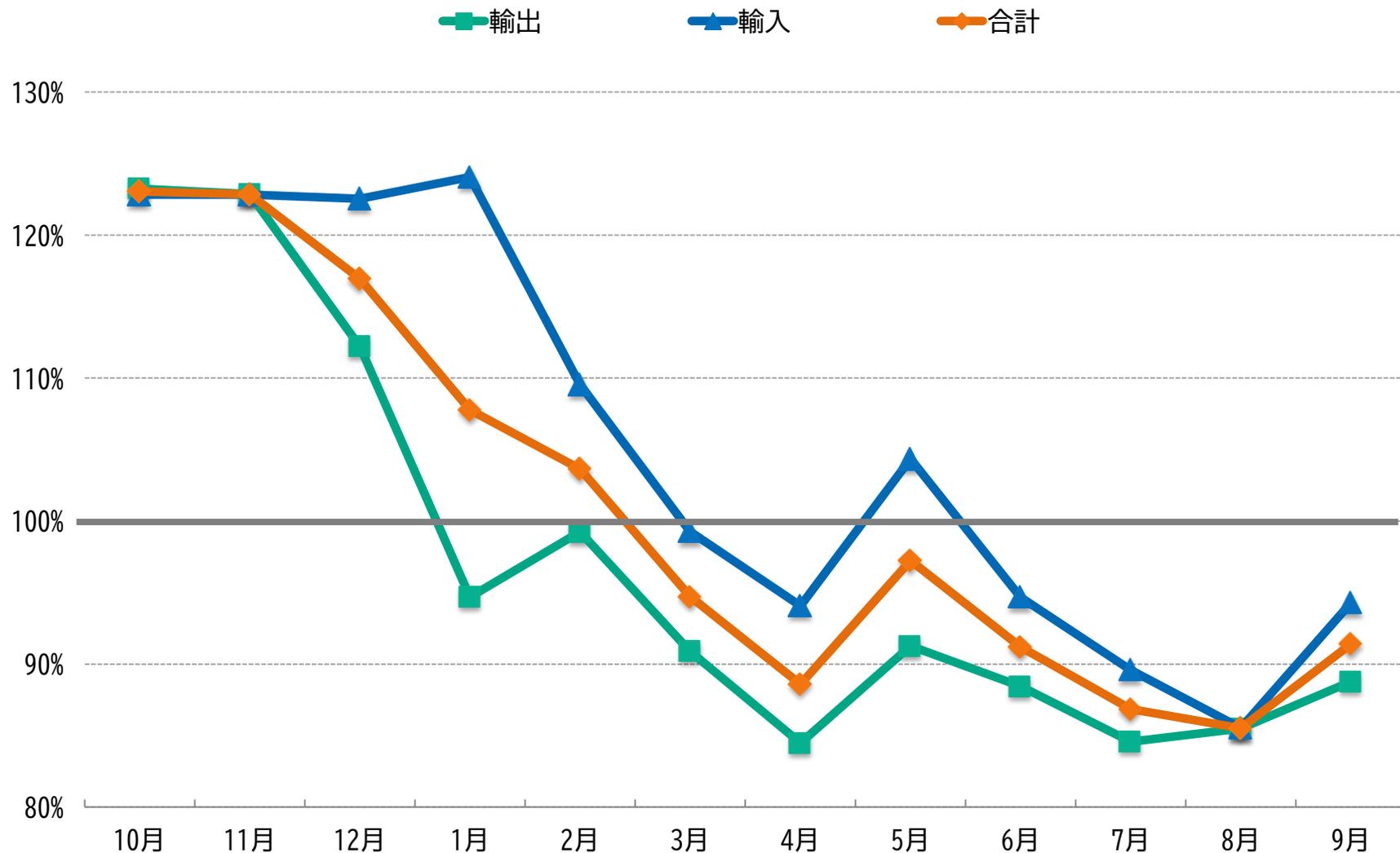
▲ 20年10月～21年9月

◆ 21年10月～22年9月



データ出典：東京都港湾局 港湾統計、横浜市港湾局 横浜港の統計

国際航空貨物取扱量（t数ベース） 前年同月比



データ出典：一般社団法人 航空貨物運送協会

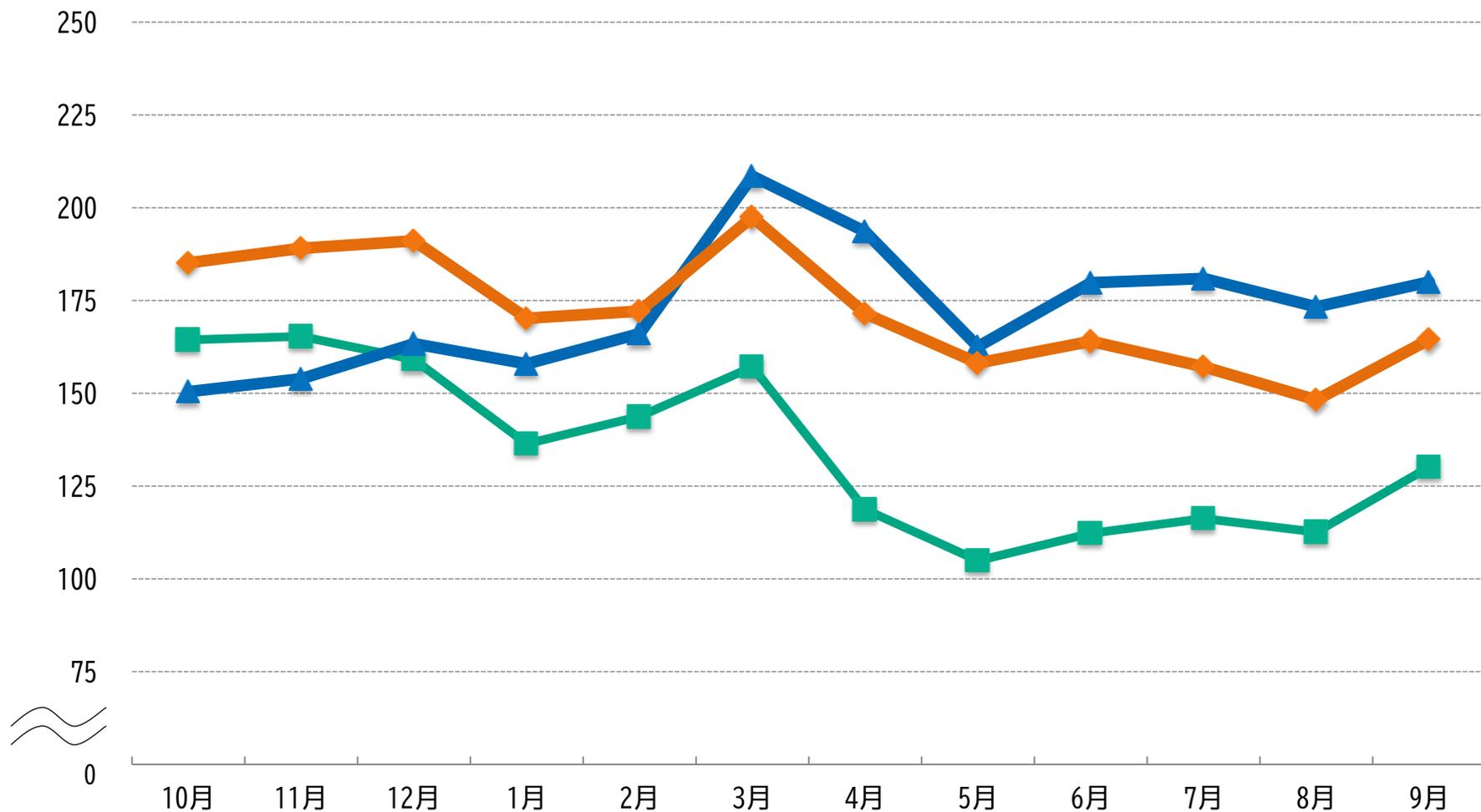
国際航空貨物取扱量 輸出入合計

(千トン)

■ 19年10月～20年9月

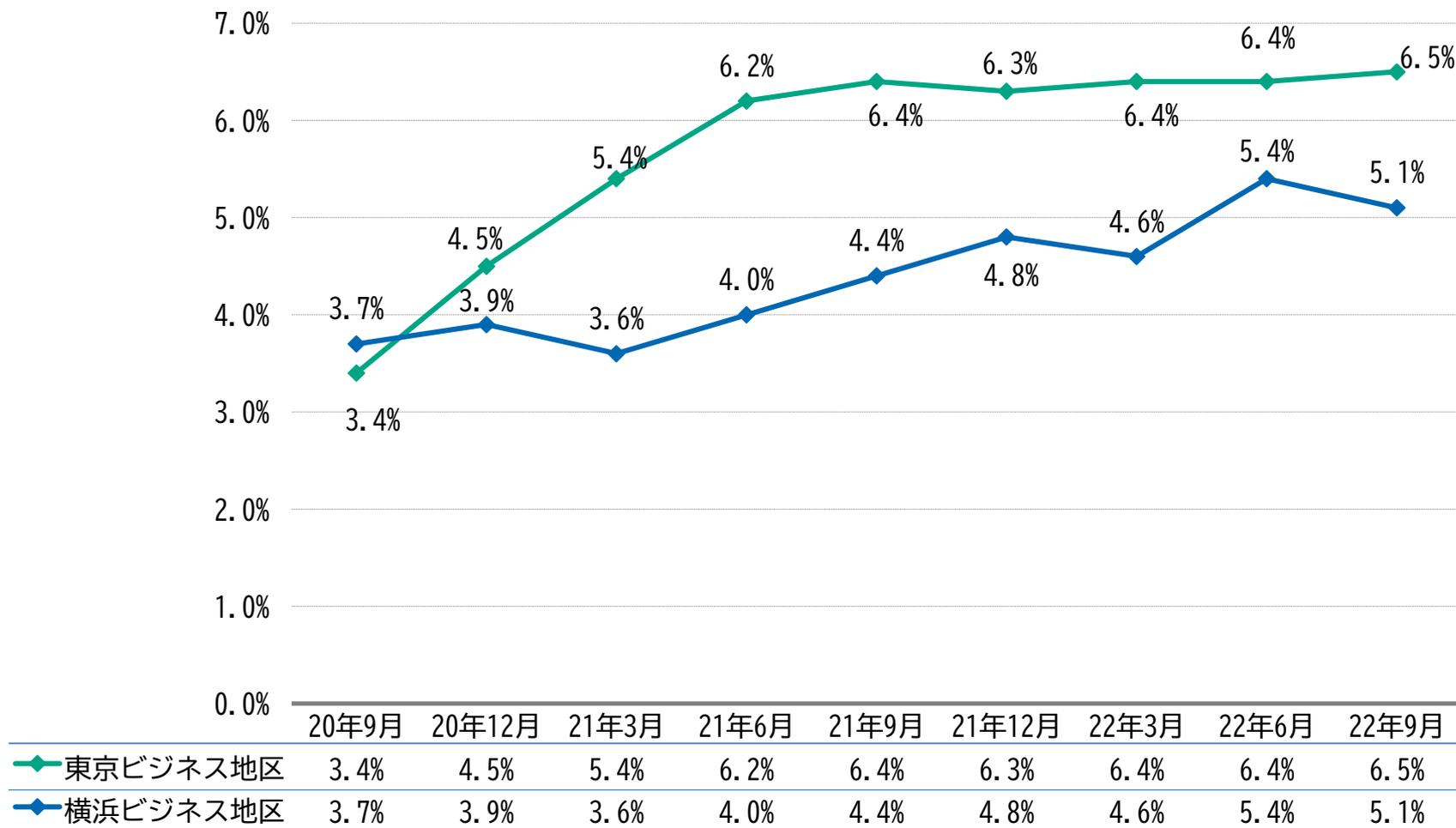
▲ 20年10月～21年9月

◆ 21年10月～22年9月



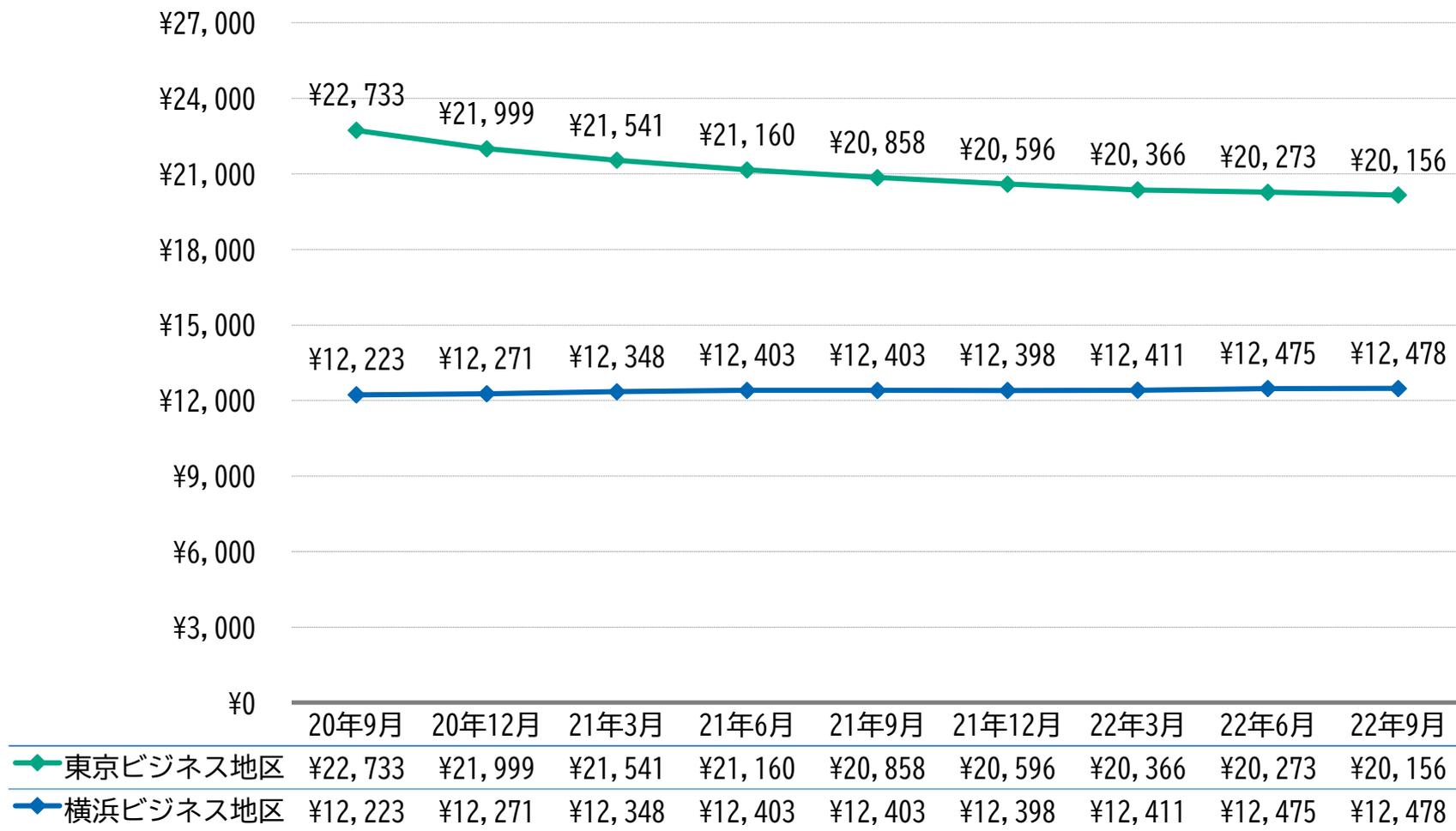
データ出典：一般社団法人 航空貨物運送協会

不動産 空室率



データ出典：三鬼商事株式会社 市況・データ情報

不動産 募集賃料相場（円／坪）



データ出典：三鬼商事株式会社 市況・データ情報

いま見える未来は、超えていける。

安田倉庫は、挑戦を続けます。

国境も、従来の物流の枠も超える、ボーダレスなロジスティクスカンパニーへと進化するために。

そして、お客様が思い描く事業と社会の新しいかたちを創造するために。



Logistics, Progress, Borderless.

YASDA

安田倉庫株式会社

当資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当資料は、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであります。

将来の業績は、経営環境等の変化に伴い、目標や計画に対し変化し得ることにご留意下さい。

投資を行う際には、必ず弊社が作成する有価証券報告書等をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。